

研究タイトル：

19世紀末美術が Henry James 及び同時代の作家に与えた影響



氏名：	長岡 美晴 / NAGAOKA Miharu	E-mail：	Nagaoka@toyota-ct.ac.jp
職名：	教授	学位：	文学修士
所属学会・協会：	日本英文学会, 日本アメリカ文学会, 東海英米文学会		
キーワード：	Henry James, 英国美術史(19世紀), 「融合」の概念, 文学と空間		
技術相談 提供可能技術：			

研究内容：

19世紀半ばから20世紀初頭にかけての英国美術において、Pre-Raphaelitism、Aestheticism、Symbolismと移行していく中で忘れてはならないのが Victorian narrative painting の伝統である。Narrative painting においては、物は物それ自体としてのみ存在するのではなく、物語性、象徴性を付与されている。人は narrative painting を見る時、一種の謎解きのように物を背景から切り取り、区別し、再び絵のコンテクストに戻すのである。Narrative painting は、painting of discrimination と言い換えられよう。その伝統に反発し、form と matter が融合した音楽を理想の芸術としたのが Aestheticism である。また、1860年代以降、ヨーロッパ絵画に男女の融合形態、third-sex としての Androgyny が現れるようになる。このような絵画における支配的概念の変化が、美術に造詣が深く、ロンドンから英国及び大陸の美術事情を米国の雑誌に書き送っていた Henry James の作品あるいは小説技法にどのような影響を与えていたのか、また彼と同時代の作家に対しての影響についての考察が主な研究内容である。

さらに、文学における空間の象徴性にも焦点を当てている。文学作品に空間が描かれるのは当然のことであるが、その空間の機能について論じようとする時、その空間は単なる空間であってはならず、作中人物の行動や意識と密接に関連し、かつ物語の展開にも深く関わっていなければならない。例えば、Henry James の *The Ambassadors* (1903) に描かれている空間として、パリの街、劇場、登場人物のアパート、バルコニー、庭園などが挙げられるが、作品における機能について論じるに値するのは、繰り返し現れるバルコニーと庭園であろう。James 作品の空間の象徴性にも19世紀末美術の影響があるのかどうか、また、彼と同時代の作家の作品における空間の象徴性とはどのようなものか、このような観点からも論じる必要があると考えている。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	